

1.2 企業会計

(1) 財務会計

①決算の仕組み

- ・ [] に従って、会計期間中の取引を日付順に [] に記録する。

↓

- ・ 勘定科目ごとに整理して [] に転記する。

↓

- ・ 転記が正しく行われているかを、 [] を作成して確認する。

↓

- ・ 決算日に行う決算整理の情報を反映し、 [] を作成する。

↓

- ・ [] (貸借対照表, 損益計算書など) を作成する。

②財務諸表

1) [] (B/S, バランスシート)

: 資産・負債・純資産を表示し、一定時点（通常は期末時点）における企業の財政状態を明らかにする。前期と当期を比較することで、 [] (利益) 又は [] (損失) を確認できる。

借方	貸方
[]	[]
	[]

- ・ []

: 貸借対照表を正しく作成するため、企業が保有する資産を正確に把握する。

- ・ []

: 建物、備品などの価値の減少額（減価）を費用として計上し、資産の取得価額からその減価分を差し引くこと。

- ・ 定額法

$$\text{償却費} = \frac{[\] - [\]}{[\]}$$

- ・ 定率法

$$\text{償却費} = [\] \times \text{償却率}$$

- ・ []

: 決算時の在庫（商品やサービスなど）の価値を評価すること。

- ・ [] 法: 先に仕入れた商品から順に販売したものとして計算。

- ・ [] 法: 仕入金額の合計を、仕入数量の合計で除算。

- ・ 移動平均法: 商品を仕入れるたびに、次式で計算。

$$\text{在庫単価} = \frac{\text{在庫金額} + [\]}{[\] + \text{仕入数量}}$$

2) [] (P/L)

: 費用・利益と収益, 又は費用と収益・損失を表示し, 一定期間における企業の経営成績を明らかにする。

・勘定式

借方	貸方
[]	[]
[]	[]

又は

借方	貸方
[]	[]
[]	[]

・報告式

・ [] (営業収益)

: 商品やサービスの販売金額。

・ []

: 商品やサービスの原材料費・製造費又は仕入費。

・ 売上総利益 (粗利益) 又は売上総損失

$$\text{売上総利益} = [] - []$$

・ 営業利益又は営業損失

$$\text{営業利益} = [] - []$$

・ 経常利益又は経常損失

$$\text{経常利益} = \text{営業利益} + [] - []$$

・ 税引前当期純利益又は税引前当期純損失

$$\text{税引前当期純利益} = \text{経常利益} + [] - []$$

・ 当期純利益又は当期純損失

$$\text{当期純利益} = [] - \text{法人税等}$$

・ 当期繰越利益剰余金

$$\begin{aligned} \text{当期繰越利益剰余金} = & [] \\ & + (\text{前期繰越利益} + \text{任意積立金崩額} + \dots \text{等}) \\ & - (\text{中間配当金} + \text{利益準備金積立額} + \dots \text{等}) \end{aligned}$$

3) その他の財務諸表

・ []

: 会計期間における資金 (現金) の収支を “営業活動”, “投資活動”, “財務活動” の三つの活動区分に分けて表す。

・ []

: 貸借対照表の純資産 (株主資本など) の変動額を表す。

・ []

: 組織全体の決算 (連結会計) を表す。

・ []

: 当期末処分利益, 利益処分額, 次期繰越利益などを表す。

・ []

: 適正な投資判断ができるように, 財務状況などを開示する。

(2) 管理会計

①経営分析

1) []

: 経営分析で利用する、決算書の勘定科目間の関係（割合）で示される指標。

・収益性指標

: 企業がどれだけ効率良く収益をあげているか、収益面から分析するための指標。

自己資本利益率、総資産利益率又は総資本利益率、売上高 []、売

上高 [], [] 回転率, [] 回転率などがある。

・ [] (自己資本利益率)

$$\text{自己資本利益率} = \frac{[]}{[]}$$

・ [] (総資産利益率又は総資本利益率)

$$\text{総資産利益率} = \frac{[]}{[]}$$

・採算性指標

: 投資対効果を示す指標。 [] (投資利益率) などが該当する。

$$\text{投資利益率} = \frac{[]}{[]}$$

・安全性指標

: 経営活動に必要な資産の運用が健全かどうか、支払能力は十分かなど、財政状態を分析するための指標。自己資本比率、流動比率、当座比率、負債比率などがある。

・ 自己資本比率: 長期的・潜在的な支払能力を示す指標。

$$\text{自己資本比率} = \frac{[]}{[]}$$

・ 流動比率 : 当座の支払能力を示す指標。

$$\text{流動比率} = \frac{[]}{[]}$$

2) [] (経済性分析)

: 意思決定の際に、複数の候補案の中から経済的に最も有利な案を選択するという観点で行われる経営分析。

②損益分岐点分析

1) []

: 将来の一定期間に必要とされる利益目標を設定し、その目標を達成するための経営活動計画。

2) 直接原価計算

・ [] : 売上高や生産量とは関係なく発生する、一定の費用。

・ [] : 売上高や生産量に応じて増減する費用。

・固定費率と変動費率：[] に対する固定費および変動費の割合。

$$\text{固定費率} = \frac{[]}{[]} \quad \text{変動費率} = \frac{[]}{[]}$$

3) [] (貢献利益)

: 固定費を回収できる利益 (利益+固定費)。

$$\begin{aligned} \text{限界利益} &= [] - [] \\ &= \text{営業利益} + [] \end{aligned}$$

売上高に対する限界利益の割合を [] という。

※限界利益率+変動費率=1 (100%)

4) []

: 利益も損失も生じない, 営業利益が0となる売上高。固定費と変動費, 売上高がわかっているならば, 次の式で算出することができる。

$$\begin{aligned} \text{損益分岐点売上高} &= \frac{[]}{1 - \frac{[]}{\text{売上高}}} \\ &= \frac{[]}{[]} \end{aligned}$$

・ [] (損益分岐点図表)

: 売上高と費用・利益の関係を示す図表。

